

メディア教育研究

放送 太郎¹⁾・大学 花子²⁾

「メディア教育研究」は多様なメディアを利用して行う教育の研究および開発に関する動向、展望および学術成果を掲載した学術研究誌である。毎号、e-Learning など IT を活用した教育に関する招待論文と一般投稿された原著論文、展望論文、研究資料、研究開発速報、報告を掲載している。これは「メディア教育研究」に投稿する原稿のテンプレートである。ここに掲載している以外の執筆要領については日本心理学会の 2005 年版執筆・投稿の手引きを参照のこと。

キーワード：執筆要領, e-Learning, メディア教育, 投稿要領, 投稿募集

1. はじめに

本様式はメディア教育研究に投稿する原稿の執筆様式を示したものである。メディア教育研究に掲載される原稿の種類は招待論文、原著論文、展望論文、研究資料、研究開発速報、報告があり、招待論文および報告は校閲が行われ、その他の原稿については2人以上の査読者による審査が行われる。投稿原稿はいずれも未発表のものに限られる。

「1. はじめに」は論文の書き始めであって、ここには研究の背景、研究を始めた動機等を説明する。また、論文内容の要約と得られた成果を簡潔に説明する。「1. はじめに」の代わりに「1. 序論」、「1. まえがき」といった表記を使ってもよい。

2. メディア教育研究執筆要領

2.1. 構成

(1) 1 ページ目に論文や資料のタイトル、著者名のフルネーム、サマリー、キーワードを記述する。著者名の所属は表題掲載ページの左下に脚注として入力する。和文原稿では、サマリーの字数は 400~600 文字とする。また、原稿の最後に、著者履歴と英語サマリーをつける。英語サマリーの長さは 100~120 語とする。

英文原稿では和文同様に「表題」、「著者」、「サマリー」の順に記述する。サマリーの字数は 100~120 語とし、原稿の最後に 400~600 文字の和文サマリーをつける。

(2) 本文は「1. はじめに」から書き始め、方法や結果等の内容を記述し、最後に引用文献、謝辞（必要な場合）を記述する。ただし、原稿が報告の場合においては、そのサマリーは、和文原稿の場合には日本語のみ、英文原稿の場合には英語のみとし、引用文献の記載を省略することができる。

場合には英語のみとし、引用文献の記載を省略することができる。

2.2. 見出し

大見出しには 1., 2. といった算用数字を用い、中見出し、小見出しは、さらにその後に数字をつけ、

1. 1.

1. 1. 1.

2. 2.

2. 2. 1.

のように記述する。見出しの前は 1 行空ける。大見出しの後には 1 行空けるが、中見出し、小見出しの後には改行とする。本文の内容を理解させ易くするために、

(1)

(2)

と節を分けて書いてもよい。

また、文中に並列的に文章や語彙を並べて記述する場合、わかりやすくする必要がある場合、(a), (b), (c), のように半角のアルファベットに括弧をつけて用いる。この場合、文章の内容によって改行しても、しなくてもよい。

2.3. 原稿のページ数と文字数

(1) 原稿は、縦置き A4 判用紙に横書き 2 段組で 1 頁 25 字×49 行とする。刷り上り頁数は、招待論文、原著論文、展望論文及び研究資料は 8 頁以上 16 頁以下、研究開発速報は 4 頁以上 6 頁以下、報告は 6 頁以下とする。

2.4. 図表の書き方

(1) 図及び表は、正確かつ明瞭に書く。それぞれの図及び

¹⁾ 放送大学

²⁾ 総合研究大学院大学

表には、図1、表1のように通し番号を付すとともに、必ず題を付ける。図の場合には下部に、表の場合には上部に題名を記述する。

(2) 図、表及び写真は、図1や表1のように、文中に組み込む。

(3) 図、表及び写真は、鮮明なものを組み込むように求める場合がある。グラフ表示の場合、色ではなく模様等で識別できるようにする。また、凡例は図1のようにグラフに直接書き入れるか、グラフの脇にまとめて記述してもよい。

(4) 図表が細かく、書かれている文字等が見え難い場合には表1のように段組をせず、2段にまたがって入れる。

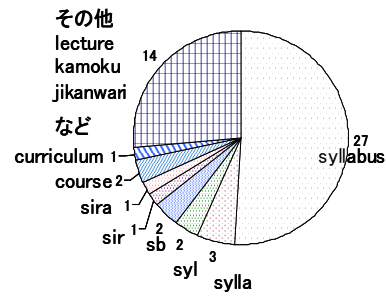


図1 シラバスのURLに含まれる語彙

表1 メディア教育の投稿原稿種別とその内容

種類	内容
招待論文	メディア教育研究の特集テーマにふさわしい実践、研究、開発等をメディア教育研究編集委員会が推薦し、投稿を依頼したもの。
原著論文	メディア教育に関する理論、方法、実践、システム開発等の研究結果で、新規性、信頼性、有用性の高いもの。
展望論文	メディア教育における特定分野の研究を体系的にまとめ、新規性のある視点で分析することにより研究動向等を展望したもの。
研究資料	メディア教育研究の発展に資する調査報告、実践報告、システム開発報告等であり、新規性は高くなくても、有用な結果と考察が記載されているもの。
研究開発速報	メディア教育に関する研究、開発、実践等の速報的なもの。なお、研究開発速報は、分析や考察、実験を追加して研究内容を発展させることで原著論文あるいは研究資料に投稿できる。
報告	メディア教育に関する活動報告、海外実情調査報告、国際会議報告など、有用な情報が記載されているもの。

2.5. 文章の表記および文字の表記

(1) 文章は、日本語又は英語とし、日本語は、原則として常体で、現代かなづかいを用いるものとする。

(2) 固有名詞以外の専門語の外国語は初出の際にのみ原綴を付し、その後に日本語訳とその後に(原名:以下・・・とする)として略語で記述する。

(例) Learning Management System (学習管理システム:以下LMSと記述する)

(3) 注は、論文の末尾、引用文献の前に一括して入れ、本文中の当該箇所の右肩に1), 2)のように上付き文字で示す。

(例) 英国ではボローニャ会議以降¹⁾、高等教育機関の改革が急進し・・・・・・

(4) 数字は、原則として算用数字を用い、数字、アルファベットおよび記号は半角とする。

(5) 句読点は「, (全角)」および「。」を用いるものと

する。

2.6. 引用文献の表し方

(1) 文献の引用

(a) 本文中での文献の引用は、次のようにする。

(例) Sato (2001)は・・・
佐藤 (2001) は・・・

同じ著者で発行年が同じ場合には発行年の後にa, b, c,などのアルファベットをつけて区別し、

佐藤 (2002a)は・・・
佐藤 (2002a, b)によれば・・・

と記述する。また、文末に引用する場合には、

・・・と言っている(Sato, 2003)。
・・・と言っている(佐藤, 2003)。

と記述する。なお、引用文献が2人の著者の共著である場合には、二人の名字間を“・”や“&”で結んで記述する。

(例) 佐藤・鈴木 (2004)は・・・

Sato & Suzuki (2004)によれば・・・

あるいは、

・・・である (佐藤・鈴木, 2004)。

・・・である (Sato & Suzuki, 2004)。

と表す。

(b) 著者が3人以上の場合には、初出の際に、全著者の姓を書き、2度目以降は筆頭著者の姓と「他」、英語の場合には「et al.」をつける。

初出の場合

(例) 佐藤・鈴木・高橋 (2005)は・・・

Sato, Suzuki, & Takahashi (2005)は・・・

・・・と言われている (佐藤・鈴木・高橋, 2005)。

・・・である (Sato, Suzuki, & Takahashi, 2005)。

2度目以降の場合

佐藤他 (2006)は・・・

Sato et al. (2006) は・・・

・・・と言われている (佐藤他, 2006)。

・・・と言われている (Sato et al., 2006)。

(c) 一度に複数の引用をつける場合には、著者名のアルファベット順 (著者が同じ場合には発行年の古い順) にセミコロンで区切って記述する。

(例) (佐藤・高橋, 2007 ; 鈴木ほか, 2007)

(d) 出典の一部を引用する場合には、氏名、発行年、章もしくはページ番号を記述する。

(例) (Sato, 2008, p.120, Figure 3)は・・・

(佐藤・鈴木, 2008, pp.182-185)は・・・

(2) 引用文献の記述形式

引用文献は、論文の末尾に著者名のアルファベット順に、また著者が同じ場合には発行年の古い順に一括して記述する。(和文誌・英文誌で分けない)

引用文献の表記順は、

(a) 雑誌の場合には著者名 (刊行年)・表題 雑誌名, 巻 (ボールド体), ページ. とする。

(例) 佐藤大翔 (2008) . 生涯学習における ICT 活用の現状 メディア教育研究, 5, 173-188

(b) 著書の場合は著者名 (刊行年)・著書名 出版社 (出版社が外国の場合は所在地を含む) , 著者の分担執筆の場合は、著者名 (刊行年) . (出版社が外国の場合は所在地を含む) , 表題 編者名 (編) 著書名 出版社 ページ. とする。(例) 佐藤大翔 (2009) . 海外のICT活用教育・遠隔教育の最新事情 放送大学出版

(c) Webからの引用の場合には、著者名 (掲載年)・資料題名 サイト名 Update日 <URL> (アクセス日) を記述する。

(例) 佐藤大翔 (2009) . ICT活用教育導入ガイドブック 放送大学ICT活用 遠隔教育センター 2009年6月15日
(http://www.code.u-air.ac.jp/code_tool.html) (2009年6月30日)

2.7. その他

(1) 引用文献の前に必要であれば謝辞を記述する。

(2) 和文原稿であれば、最後に別ページとして「2.1. 構成」の(1)で記述した英語サマリーと英語のキーワード、また本文が英文の場合には、別ページに和文のサマリーとキーワードを記述する。

(3) 著者による校正は、1回とする。

(4) 英文原稿の場合には、著者の責任において、ネイティブチェックを行った原稿を提出するものとする。

(5) 原稿には、著者全員の履歴文及び顔写真を組み込む。

(6) 本執筆要領に記載された以外の原稿の書き方については、日本心理学会の2005年版執筆・投稿の手引きに準拠する。なお、これは下記 URL から入手可能である。
<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>

3. メディア教育研究の概要

3.1. 「メディア教育研究」のメリット

オンラインジャーナル「メディア教育研究」は、以下の特長を有している。

(a) 投稿から発行まで2カ月と期間が短い。

(b) pdf原稿を基本にマルチメディア・コンテンツへの展開ができる。

(c) 論文投稿を随時受け付けている。

(d) Webに掲載し世界中にその成果を公開している。

3.2. 「メディア教育研究」のこれまでの投稿論文

下記のURLを参照

<http://www.nime.ac.jp/journal/journal.htm>

引用文献

American Psychological Association (2001). Publication Manual of the American Psychological Association: Fifth Edition, Washington D.C.: American Psychological Association.



ほうそう たろう
放送 太郎

引用文献の次に、著者履歴文（顔写真付き）を書く。顔写真の大きさは、縦 25mm 横 20mm とする。著者履歴文には、大学院以降の学歴・職歴、現所属、研究分野、所属学会を記入する。



だいがく はなこ
大学 花子

著者履歴文の字数は、100-150 字とする。著者名にはふりがなを付ける。

Journal of Multimedia Education Research

Taro Housou¹⁾, Hanako Daigaku²⁾

This paper describes the way how to write your manuscript for the Journal of Multimedia Education Research.

Keywords

Multimedia Education, e-Learning, Publication Manual

1

1) The Open University of Japan
2) The Graduate University for Advanced Studies